

# 英語科学習指導案

日 時 平成 23 年 11 月 10 日 5 校時  
学 級 紫波町立紫波第二中学校  
3 年 1 組 36 名  
場 所 3 年 1 組教室  
授業者 木村 千秋

## 1 単元 Unit 6 20th Century Greats

( New Horizon English Course Book 3 )

## 2 単元の目標

- (1) 接触節や関係代名詞を使って、人やものについて説明できる。
- (2) 接触節や関係代名詞を含む文の内容を理解できる。
- (3) 人物についての説明を読んで内容を理解することができる。

## 3 生徒について

本学級の生徒は明るく素直である。英検受験や英語暗唱大会参加など、3 年生になってから英語学習に意欲的な生徒も増えてきた。普段の授業では積極的に発言しようとする生徒が多い。しかし、授業内容が理解が不十分なまま、なんとなく授業に参加している生徒も少なくない。

前単元の Unit5 では分詞の後置修飾を学習したが、まとめのテストでは単語を並べかえて後置修飾の英文を作ることはできるが、後置修飾の英文を正しく日本語に直すことができない生徒が半数以上いた。本単元で扱う接触節や関係代名詞も同じ後置修飾の文なので、同じつまづきをする生徒が多いと予想される。既習事項と関連させながら、後ろから名詞を修飾する形とその意味をしっかりと理解させたい。

### ※英語に関するアンケート（平成 23 年 10 月 28 日実施。回答人数 34 人）

Q1 英語が好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
10 人 (29.4 %)	10 人 (29.4 %)	12 人 (35.3 %)	2 人 (5.9 %)

Q2 グループやペアでの「話し合い」は役に立つを思いますか。

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
17 人 (50.0 %)	15 人 (44.1 %)	2 人 (5.9 %)	0 人 (0 %)
・他人の意見を聞くと、自分の意見と比較したり、自分の視点を変えたりでき、自分の考えが深まる。(16) ・一人ではわからないことがわかる。(4) ・一つの話題でみんなで話し合える。(3) ・意見を述べる力がつく。(2)。 ・自分の意見が言える。(2)		・話し合いにならないときがある。 ・自分の意見を英語で言えないし、グダグダになることが多い。	

10月に実施したアンケートでは、英語が「どちらかといえば嫌い」または「嫌い」と回答した生徒が41.2%とかなり多い。一方、ほとんどの生徒(94.1%)が「話し合い活動」は役に立つと考えており、その理由として「自分の考えが深まる」、「一人ではわからないことがわかる」などと理由を挙げている。このことから、「話し合い活動」を設けることは、英語嫌いな生徒も巻き込んで生徒の考えを深めたり、理解不足を補ったりする効果があるのではないかと考える。

※【参考】平成23年10月の英語能力判定テスト人数比率(本校3年生 受験者数68人)

3級以上	3級レベル	4級レベル	5級レベル	5級未満
2人(2.9%)	6人(8.8%)	20人(29.4%)	35人(51.5%)	5人(7.4%)

4 指導計画(8時間)

(1) Unit 6 の概要把握	1 時間
(2) Starting Out	1 時間
(3) Dialog	1 時間
(4) Reading for Communication レポートをまとめよう	2 時間
(5) 読み物テキスト(自作)の読み取り	1 時間(本時)
(6) Listening Plus 6, まとめと練習(後置修飾)	1 時間
(7) まとめ・単元テスト	1 時間

5 本時について

- (1) 主題 手塚治虫はなぜ「マンガの父」と呼ばれているのだろうか
- (2) 目標 ・人物についての説明を読んで内容を理解することができる。
- (3) 研究に関わって

①「話を聴く」力のレベルアップを高める手立て

教材を読み取らせる前に、口頭導入を行う。背景となる知識を引き出し、これから読み取る内容を予測させたり、理解を助けたりすることをねらう。口頭導入には絵や写真を使い、話し手に注目させる(LV1 話し手に注意を集中させる)ことや、教師と生徒がやりとりしながら(LV2 聞いた内容を理解させる)内容を提示していくことに配慮したい。

②課題設定の工夫

単元で学ぶ文法事項や話題に関連させた発展的内容であり、生徒の興味・関心を引く教材を準備することで学びに必然性を持たせたい。

③「考えを表現し合う」活動の工夫

設問に対して個人で答えを考える場面を設定する。その後グループで話し合わせ、読み取ったことを情報交換させる。根拠を示しながら話し合うことで、苦手な生徒も読み取りの理解が深まるだろうと考える。

④「ジョイント学習」の構築

単元の自己評価カードを活用し、見通しをもって学習させる。また、前時の学習学習から本時の学習につながる宿題を与えておく。

(4) 本時の展開

段階	学 習 項 目	学 習 活 動	時間	指導上の留意点
導 入	0 宿題及び学習道具の確認 1 あいさつ 2 宿題の確認 3 口頭導入 4 学習課題の把握	0 宿題及び学習道具の確認をする 1 英語であいさつをする。 2 宿題の答えを確認する。 3 教師の話聞き、これから読み取る人物について理解する。 4 学習課題を確認する。	15分	<input type="checkbox"/> 授業基盤の徹底 <input type="checkbox"/> 授業とつながりのある宿題 <input type="checkbox"/> 「聴く力のレベルアップ」力を高める手立て ☆写真
展 開	6 テキストの読み取り 7 話し合い活動 8 発表	6 テキストを読み、設問に答える。 7(1) 4人組のグループを作り、答え合わせを行う。 (2) グループ内で答えを話し合い、まとめる。 8 グループ毎の発表を聞き、再び自分の考えをまとめる。	30分	☆学習プリントの配布 <input type="checkbox"/> 「考えを表現し合う」活動
終 結	9 「本時の振り返り」と「今日の家庭学習」の確認 10 あいさつ	9(1) 自己評価カードに記入しながら、本時の学習を振り返る。 (2) 家庭学習と次時の予告を聞く。 10 英語であいさつする。	5分	☆自己評価カード

手塚治虫はなぜ「マンガの父」と呼ばれているのだろうか

(5) 本時の評価規準

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
A			人物についての説明を読んで詳細な内容を適切に理解している。	
B			人物についての説明を読んで内容をほぼ理解している。	
C への 支			分からない人にはグループ内で教え合うよう促す。 年号や写真を手がかりにさせたり、必要ならば日本語を与えたりする。	

【板書計画】

Thursday, November 11th, Sunny

手塚治虫はなぜ「マンガの父」と呼ばれているのだろうか

